playpak

取扱説明書

製品名：プレイパック（playpak）

品番 414T144=20000

2015 年 6 月版

はじめにお読みください

この取扱説明書は、「プレイパック」の様々な機能と安全な使用方法をご説明するものです。
安全と機器の保全に基づいた本書の説明をご理解いただくことで、本製品を快適にご使用いただくことができます。

playpak

目　次

1. 使用目的

プレイパックは、お子様の発達を、日常の遊びを通してサポートする、持ち運びが可能な道具です。
バッグを広げると、お子様の楽しい遊び場を作ることができます。生後数ヶ月～4歳位までのお子様で、GMFCS レベルがⅠ～Ⅴのお子様が、それぞれの能力に応じた使い方ができるようになっています。バッグの中には、臨床の専門家によって考えられたロールやクッションが入っており、お子様の発達に向けた色々な姿勢に合わせて、様々な使い方ができます。

●遊びを通した早期からの発達のサポートは、なぜ重要なのでしょうか？
全てのお子様は、生まれた時には限られた能力しか持っていません。　ですから、誕生からの4年間は、お子様の発達にとって最も重要な時期と言えます。しかし、単に時間が経過するだけでは、お子様の能力が発達していかない場合もあります。何らかの理由によってお子様の発達が遅れた場合、様々な能力を獲得するためにより時間をかけなければいけないケースもあり、またどれくらいの能力を獲得できるかは、お子様によって異なります。（なっています。）

お子様の発達に遅れがある場合でも、お子様は遊びの中で様々なことを学んでいきます。また、遊ぶ楽しさは、通常の訓練目標よりも大きな動きを、お子様から引き出すこともあります。

プレイパックは、お子様の身体能力や認知、感覚の能力の発達、、言葉を発する前の段階でのコミュニケーションをサポートするために作られました。　プレイパックは、背臥位（あおむけ）、腹臥位（うつ伏せ）、床座位（床すわり）という3つの基本姿勢を通して、お子様のその後の発達に必要な基礎を作っていきます。

プレイパックは、組み合わせ次第で様々な姿勢や動きのバリエーションを作ることができ、お子様の発達を最適な形でスタートさせることができます。様々な姿勢を体験することは、将来のお子様の発達のステージにおいて、非常に重要な要素なのです。その目的は、お子様が様々な運動能力を伸ばし、より力強く、更に上手に身体を動かすようになることです。

●ご家族と一緒に
プレイパックは、ご家族との遊びを、お子様にとってのセラピーや訓練のように意味あるものに変えていきます。　また、早期療育において、セラピストとご家族が一緒に取り組むことは、お子様の発達に大きな効果があることが分かってきています。
初期の脳の発達に重要な、脳内の接続のために、定期的な訓練は非常に重要です。　お子様によっては、発達を促す遊びやプログラムは、過剰な興奮を抑え、身体能力、感覚、コミュニケーション、自立性などの向上に役立ちます。

●ご家族とセラピストの連携
プレイパックを使用するうちに、お子様がある特定の姿勢や動き方を気に入ったり、医学的に好ましくない姿勢になることもあるかもしれません。お子様の動きや姿勢に関してわからない点がある場合は、適切な姿勢について、担当のセラピストに相談することが大切です。

適切な姿勢は？、お子様の筋肉の固さや強さ、発達の段階などによって変わってきます。避けなければいけない姿勢もあれば、少し頑張ってでも、その姿勢を取ることが必要な場合もあります。

2. 本製品の安全規格について

Firefly 製品の製造・販売元である James Leckey Design Ltd. は、「プレイパック」が 93/42/EEC 規格、及び福祉 用具規格 EN12182 の規格に準拠していることを宣言します。

3. 保証期間について

本製品の保証は、本製品がメーカーの推奨する使用環境、および使用目的に沿って使用された場合にのみ適用されます。製品の保証期間は 1 年間です。 製品のご購入後 12 カ月間は、製造方法や品質による不良・破損に対する交換を受け付けています。 ご利用中に発生した汚れ、破損等は保証の対象外となります。

4．安全にご使用いいただくために

注意

1. ご使用の前には、本取扱説明書を全てお読みください。

2．プレイパックを改造したり、付属品以外のパーツを取り付けて使用することはしないでください。
取扱説明書に従って使用されない場合、製品保証が適用されないことがあるだけでなく、ご利用者（ お子様 ）や介助者に危険がおよぶ恐れがあります。

3．プレイパックは、必ずフロアマット（バッグ）と一緒にご使用ください。ロール、クッション、ベルトなどのパーツを単体で使用しないでください。

4. ご使用の前に、バッグに付いているショルダーストラップを取り外してください。

5．プレイパックは、屋内での使用に向けて作られています。使わない時は、湿気のない常温の場所で保管してください。極端な高温または低温の環境では保管しないでください。

6．プレイパックは、平らな場所でご使用ください。

7．ロールやクッションなどをセットしたら、確実に固定されていることを確認してください。お子様の安全には、常に注意してください。

8．お子様にとって無理な姿勢を取らせないようにしてください。お子様の身体を傷める危険があります。プレイパックの使い方および遊び方が正しいかどうか、常に確認してください。第 8 項に、使い方についてのアドバイスが記載されています。

9．お子様の肌を傷めないために、面ファスナーのフック側（ザラザラしている方）が、お子様の肌に当たらないように気を付けてください。プレイパックの使用によって、お子様の肌や体に異常を感じた場合は、すぐに使用を中止してください。

10. プレイパックの使用中は、お子様を一人にしないでください。

11. 本製品は、EN12182 規格に沿った難燃性の部品を使用していますが、火やタバコ、暖房器具などの熱源から常に離してご使用ください。

12. 本取扱説明書の第 5 項に従って、定期的にプレイパックをお手入れしてください。研磨剤の入った洗剤の使用や、ドライクリーニングは避けてください。製品の状態を最適に保つ為に、定期的なメンテナンスと点検をして下さい。

13. バッグを開閉する時に、指や衣服を挟まないように気を付けてください。バックの開閉方法は第 89-2 項をご参照ください。

14. プレイパックのサイズが、お子様の身体の大きさに適しているか、第 9 項でご確認ください。

15. 本取扱説明書に従って使用されない場合、ご利用者（お子様）や介助者に危険がおよぶ恐れがあります。

16. 本製品の安全な使用に関して、不安や不明な点が発生した場合や、部品が破損、紛失した場合には、直ちに製品の使用を中止し、オットーボック・ジャパン（株）（TEL:03-3798-211）まで連絡してください。安全な使用に関して疑問があったり、パーツが脱落した場合は、製品の仕様 をただちに中止し、すぐにオットーボック・ジャパン株式会社（03-3898-2111）まで連絡してください。

5. 製品のお手入れの方法について

・プレイパックのバッグ／フロアマットは、単体で、40℃のぬるま湯を使用して洗濯機で洗うことができます。洗濯後は吊り干しすることをお勧めしますが, 乾燥機を使用される場合は低温で乾燥させてください。
・ロール / クッションは、中からウレタンフォームを取り出して、カバーだけを洗濯することができます。40℃のぬるま湯を使用して洗濯機で洗うことができます。洗濯後は吊り干しすることをお勧めしますが、乾燥機を使用される場合は低温で乾燥させてください。
・ドライクリーニングはできません。
・漂白剤は使用しないでください。
・アイロンをかけないでください。
・色移りを避けるために、他の衣類と一緒に洗濯しないでください。
・汚れた場合は、吸水性のある布やタオル、スポンジなどで、できるだけ早く拭き取ってください。通常の汚れや微量の血液等には、手洗い用の石鹸をぬるま湯に溶かしたものをスポンジに含ませて拭くと、汚れが取れやすくなります。布地を濡らしすぎると汚れが拡がるおそれがありますので、ご注意ください。
・特に汚れがひどい場合は、殺菌性のある洗剤を使用してください。必要に応じて、アルコー ルやベンジン等の石油系溶剤も使用して下さい。洗剤を完全に落としてから、再度プレイパックを使用してください。

面ファスナーについて

・面ファスナーの表面に、糸くずやほこり等がたまると、固定力が弱まります。乾いた歯ブラシやペット用の金ブラシ、または粘着ローラーやテープで取り除いてください。

6．製品の日常点検について

プレイパックを安全にご使用いただくために、ご使用前に必ず点検を行ってください。

・面ファスナーの表面に、糸くずやほこりがたまっていないか？
糸くずやほこりを乾いた歯ブラシやペット用の金ブラシ、または粘着ローラーやテープで取り除き、面ファスナーでしっかり固定できるようにしてください。
・お子様とプレイパックで遊ぶ前に、お子様を安全に支えるのに必要なロールやクッションが全てそろっていて、遊んでいる間にお子様を確実に支えられることを確認してください。

7．製品の再利用について

製品を再利用される場合には、第５項に従って、完全にクリーニングされていることを確認してください。また、再利用される製品が改造されていたり、特別な装備が含まれていないかを確かめてください。取扱説明書（コピーでも可）を製品に必ず添付してください。本製品の安全な使用に関し、不安や不明な点が発生した場合や、部品が破損、紛失した場合には、直ちに製品の使用を中止し、オットーボック・ジャパン株式会社（03-3898-2111）まで連絡してください。

8．使用方法について

8.1　使用目的

プレイパックはどのようなお子様に適しているのでしょうか？

全てのお子様は、生まれた時には限られた能力しか持っていません。このため、誕生からの４年間は、お子様の発達にとって最も重要な時期と言えます。しかし、単に時間が経過するだけでは、お子様の能力が発達していかない場合もあります。何らかの理由によってお子様の発達が遅れた場合、様々な能力を獲得するためにより時間をかけなければいけないケースもあります。またどれくらいの能力を獲得できるかは、お子様によって異なります。

お子様の発達に遅れがある場合でも、お子様は遊びの中で様々なことを学んでいきます。また、遊ぶ楽しさは、通常の訓練目標よりも大きな動きを、お子様から引き出すこともあります。

プレイパックは軽量で持運びが可能な、お子様の遊び場です。
ゼロ歳〜生後４歳位までの、GMFCS レベルがⅠ〜Ⅴのお子様に向けて作られています。

プレイパックの目的は、背臥位（あおむけ）、腹臥位（うつぶせ）、床座位（床すわり）という、将来の発達に向けて重要な３つの姿勢を通して、お子様の身体的能力、認知能力や感覚、また、言葉を覚える前のコミュニケーション能力の発達をサポートすることです。

プレイパックは、臨床の専門家によって考えられたロールやクッションを組み合わせることとで、お子様を適切にサポートする様々な使い方ができます。
使用例は、本取扱説明書の第 8-3 項で紹介しています。また、Firefly 社のウェブサイト（www.fireflyfriends.com/playpak）でもご覧いただけます（音声は英語になります）。

プレイパックを使用するうちに、お子様がある特定の姿勢や動き方を気に入ったり、医学的に好ましくない姿勢になることもあるかもしれません。お子様の動きや姿勢に関してわからない点がある場合は、適切な姿勢について、担当のセラピストに相談することが大切です。

適切な姿勢は、お子様の筋肉の固さや強さ、発達の段階などによって変わっていきます。避けなければいけない姿勢もあれば、少し頑張ってでも、その姿勢を取ることが必要な場合もあります。

8.2　プレイパックがとどいたら

プレイパックはどのようなお子様に適しているのでしょうか？

プレイパックの箱を開けるときは、カッターなどの刃物で、中の製品を傷つけないように注意してください。
プレイパックは、箱から出して、タグを取り外せばすぐに使えるようになっています。プレイパックを広げる時、または畳む時は、平らな床の上に置いて行うのが簡単です。
バッグ前側のフラップを開き、両側にあるファスナー（オレンジの持ち手がついています）を開けてください。ファスナーに指や手を挟まないように気を付けてください。

両横のフラップを開いて、中のクッションやロールを取り出してください。
ショルダーストラップがマットの下に入って突起物にならないように、使用する前にショルダーストラップを用前に外してください。

プレイパックは、下記のパーツで構成されています。

バッグ　（開くと、フロアマットになります）　x １

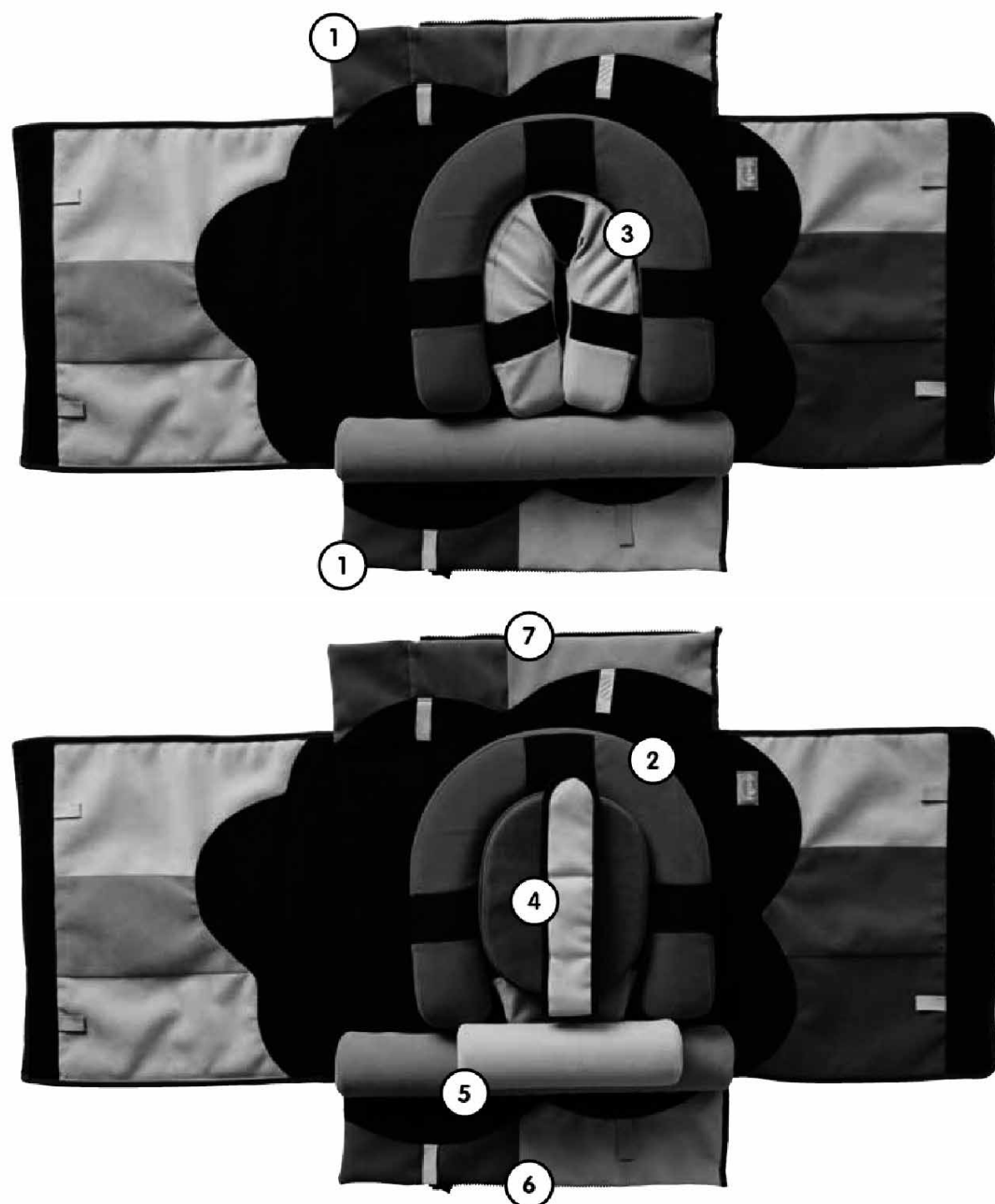
・バッグの底には滑り止めが付いていて、フロアマットとして使用する際に床の上で滑りにくくなっています。
・バッグは、前述の方法で開いたり畳んだりできます。
・フロアマットの表側（バッグの内側）には、雲の形の紺色の面ファスナーが付いていて、付属のロールやクッションを簡単に取付け／取外すことができます。フロアマットの端には、お子様の好きなおもちゃを取付けるループが付いています。

注意	● 安全のために、プレイパックが入っているポリエチレン製の袋は、お子様の手の届かないところに置いてください。

注意	● フロアマットは、必ず平らな場所に置いてください。付属のロール・クッション・ベルトなどは、必ずフロアマットと一緒に使用し、単独では使わないでください。

●クッション類
①ロールクッション　（ロング x1、ショート x1）
②ベルト
③ウェッジクッション
④Ｕ字クッション　（大 x1、小 x1）

収納方法

1. 両横のフラップを立て、面ファスナーを貼り付けて箱状にします。（写真①）
2. U 字クッション（大）を置きます。（写真②）
3. U 字クッション（小）を、U 字クッション（大）の内側に置きます。（写真③）
4. ウェッジクッションを U 字クッション（小）の上に置きます。その上に、2 つに折ったベルトを置きます。（写真④）
5. ロールクッション（ロング）を、フロアマットの折り目に沿って置きます。ロールクッション（ショート）を、ロールクッション（ロング）の上に置きます。（写真⑤）
6. フロアマット横のファスナーを閉じていきます。指を挟まないように気を付けてください。
7. 両横のファスナーを閉じたら、大きなフラップを閉じて、面ファスナーで固定します。
8. ショルダーストラップを取付けます。

8.2　プレイパックの活用方法

プレイパックは、クッションやロールを利用して、お子様の姿勢や動きを、様々なバリエーションでサポートすることができます。

プレイパックを使用するうちに、お子様がある特定の姿勢や動き方を気に入ったり、医学的に好ましくない姿勢になることもあるかもしれません。お子様の動きや姿勢に関してわからない点がある場合は、適切な姿勢について、担当のセラピストに相談することが大切です。

適切な姿勢は、お子様の筋肉の固さや強さ、発達の段階などによって違います。避けなければいけない姿勢もあれば、少し頑張ってでも、その姿勢を取ることが必要な場合もあります。

プレイパックの使用中にお子様が疲れた様子を見せたときは、使用を中断し、お子様を休憩させることが大切です。

プレイパックを使用する前に、各部の面ファスナーが傷んでおらず、しっかりと機能することを確認してください。

プレイパックでは、様々なバリエーションのサポートを作ることができますが、まず背臥位（あおむけ）から始めて、お子様の発達に合わせて、腹臥位（うつぶせ）、床座位（床すわり）へと進んでいきましょう。

背臥位（あおむけ）

背臥位という姿勢の役割
背臥位は、発育における姿勢の中で、基本となる姿勢です。お子様が背臥位を取るとき、全体重は、支持面に対して左右対称にかかります。このことは、身体能力、認知、感覚、コミュニケーションの発達の基礎となり、より高いレベルに到達するための安定した姿勢をもたらします。

「動き」としてのゴール
お子様が、重力に対して頭や腕、足を持ち上げられるようになることで、首、体幹、肩の筋肉や、股関節を曲げる筋肉を強くします。

「認知」としてのゴール
背臥位は、お子様が、両手や、手と足を合わせやすい姿勢です。この動きによりお子様は自分の体の部位を認識し、それぞれの関係を学習し、身体意識や協調運動の基盤をつくっていきます。

「感覚」としてのゴール
背臥位の姿勢では、ぶら下がっているものに目の焦点を合わせることが、最も簡単にできます。最初は、90° 位の範囲の視野で、目だけで動きを追うことを学習し、それから、顔と目を動かすことを学習し、より広い視野を得ていきます。お子様が、自分の手や足の存在に気付き、それらを口に持って行くことができるようになると、目と手の協調運動や運動能力が向上していきます

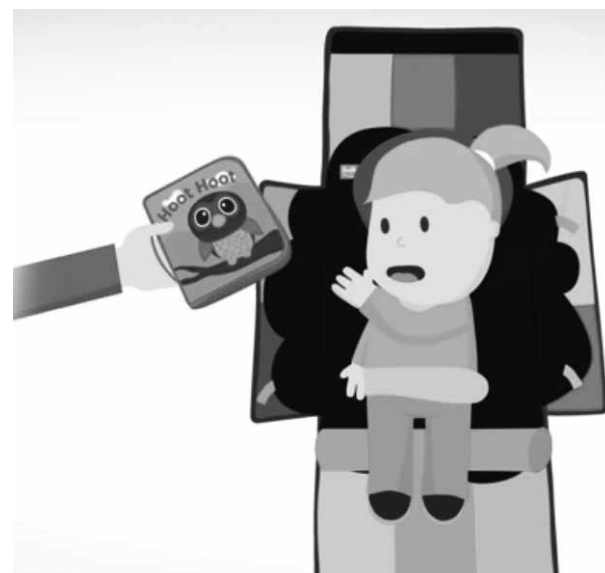
「コミュニケーション」としてのゴール
背臥位では、お子様が周りの人や物の存在に簡単に気付くことができます。その結果、注意を払ったり集中力を養うなど、コミュニケーションにおける初歩的な能力を身に付けていくのです。

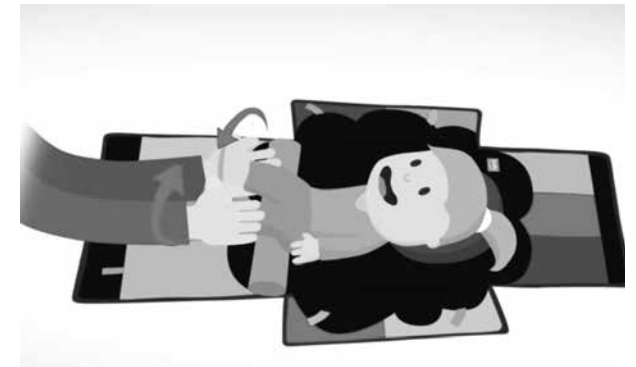
背臥位

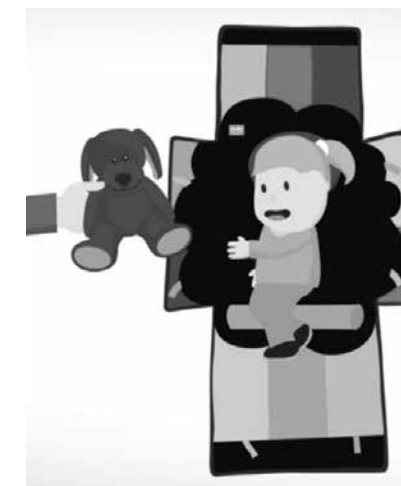
こんなふうに使ってみましょう

1．明るいカラフルなおもちゃや物（スカーフやポンポン）を、お子様の顔から 30 － 40cm くらい離して持ちます。それを左から右に 90°くらいの範囲（1/4 円を描く感じで山なりに）動かし、また戻します。お子様の目がついてこられるように、ゆっくりと動かします。次のステップは、おもちゃを 40 － 50cm くらい離して持ち、お子様の頭部の動きも引き出せるように、半円を描くように動かします。
おもちゃがお子様の視界に入った時に、そのおもちゃの名前を言ってあげると、お子様は言葉を覚える一つのきっかけにもなります。

2．お子様の両手が、胸の前で合わさるようにしてみましょう。お子様の腕が前に動かしやすいように、介助者の手を、お子様の両肩の下に入れてあげると良いでしょう。

プレイパックをイラストのように右側におもちゃを置きトし、ストラップ（写真 1．？）を使用してお子様の骨盤を安定させます。お子様が左手を体の反対側に回し、右側にあるおもちゃに触らせます。反対の方向でも行います。この動きができるようになれば次は、骨盤部 のストラップをはずし、おもちゃを少し遠くに置きます。お子様は、おもちゃに触るために、お尻の重心を移動させなければいけなくなります。この動作は寝返り動作のための基礎となります。

3．お子様の足を持って、足を持ち上げたり、くるくる回したりするようにしましょう。これは、お子様の体幹や下肢、足、を強くし、後にお子様が体重を支えたり動いたりするのに必要な相互の動きの訓練になります。

4．お子様の手と足を体の真ん中で合わせるようにしてみましょう。この中心線に沿った姿勢は、左右の対象性を促すのに適切で、体の両側を一緒に使うことを学びはじめます。

5．お子様が周りの人の顔を見られるようになってきたら、「いない　いない ばあ！」のような遊びをしたり、歌でリズムを取りながら身体を動かすことで、お子様の注意力を引き出すことができます。色々な音やリズムをまねることは、お子様にとってよい学習となります。また、動きを交えながら、声色や雰囲気を変えていくと、お子様が特定の言葉を認識する練習になります。

6．寝返りを助けるように、お子様を背臥位と側臥位（横向き寝）の中間くらいで寝かせてみましょう。お子様が、おもちゃを触ったりけったりできるように促し、お子様自身が体幹をコントロールして寝返りが打てるようにしてみましょう。お子様が肩を回そうとしている間は、お子様の腰や足を支えてあげましょう。

7．寝返り動作を更に進めるために、下半身を、ストラップか介助者の手で、しっかりと押さえます。お子様が上半身で寝返り動作ができるように促します。おもちゃをお子様が届かないところに置いておくと良いでしょう。上半身を回すことができれば、下半身がつられて回るようになります。

腹臥位（うつぶせ）

腹臥位という姿勢の役割
腹臥位は、お子様にとってさらに難しい姿勢です。周りを見るためには、お子様は重力に逆らって顔を持ち上げなければいけないからです。しかし、この姿勢や動作はお子様の筋肉を強くするために非常に重要です。
まずは簡単な動作から始めてみましょう。

「動き」としてのゴール
顔や肩を重力に逆らって持ち上げることは、上半身をまっすぐにする（伸展させる）筋肉を強くします。このことは、筋緊張の弱いお子様への助けにもなります。また、これは、良い座位姿勢を取れるようになる重要な基礎にもなります

「認知」としてのゴール
お子様が頭を持ち上げ、前腕で身体を支えることを学習すると、肩や腕が、お子様の身体の中でどのような位置づけにあるのか、また、環境の中でどのような位置づけにあるのか、という感覚をお子様にフィードバックします。お子様がおもちゃに手を伸ばすという動作は、お子様の目と環境を統合し、お子様の空間認知をも発達させています。

「感覚」としてのゴール
頭部のコントロールがしっかりできることにより、お子様は自分の周りの環境に関心を持ち、周りを見たりすることで、お子様はある程度の時間この姿勢で遊ぶことができ、筋力を強くして行くことができます。

「コミュニケーション」としてのゴール
腹臥位は、お子様の胸部が圧迫されるため、声を出すには、やや難しい姿勢です。しかし、この難しい姿勢や動作を、お子様がモチベーションが保ちながら行うために、コミュニケーションは非常に重要になります。

腹臥位

こんなふうに使ってみましょう

1．お気に入りのおもちゃなどで誘って、お子様が頭を持ち上げるようにしましょう。次に、おもちゃを左右にゆっくり動かしてみましょう。お子様はおもちゃを追いかけて、頭を左右に動かさなければならなくなります。

お子様がお気に入りの歌を歌ったり、リズミカルに動くことで、お子様が相手を見続けることを促します。また、動きを交えながら、声色や雰囲気を変えていくと、お子様が特定の言葉を認識する練習になります。

お子様が新しい言葉を覚えやすくするために、おもちゃの名前を言う前に、先ずおもちゃをお子様の視界に入れてあげましょう。

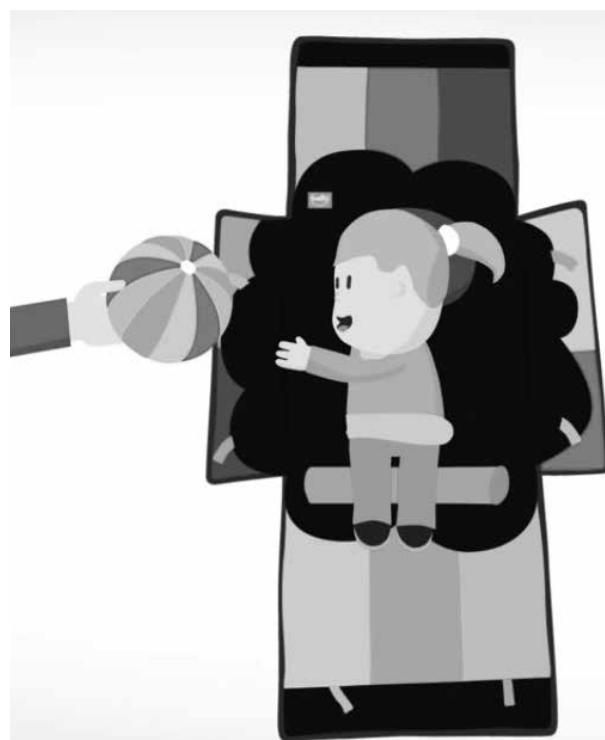
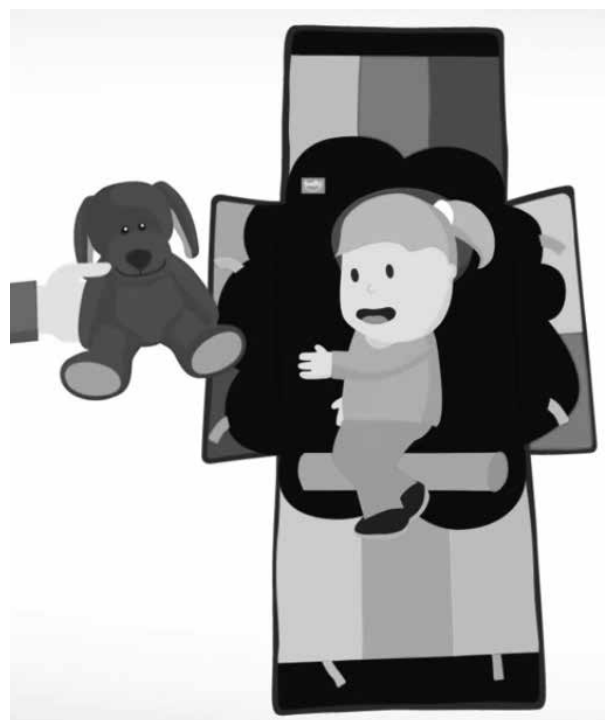
2．お子様が、手のひらを開いて、肘を伸ばす動作、「プッシュアップ」をしてみましょう。この動作は、お子様の肩や上半身を伸展させ、手で自分を支えることを促します。これは、四つ這い位の基礎になります。これはまた、必要なコントロールのために肩を安定させることにより、より良い運動機能の初期の基礎となります。

お子様がお気に入りの歌を歌ったり、リズミカルに動くことで、お子様が相手を見続けることを促します。また、動きを交えながら、声色や雰囲気を変えていくと、お子様が特定の言葉を認識する練習になります。
お子様が新しい言葉を覚えやすくするために、おもちゃの名前を言う前に、先ずおもちゃをお子様の視界に入れてあげましょう。

3．お子様が頭を持ち上げている時、片手を伸ばして、な何かを掴む動作をさせてみましょう。この動作は、体幹や脊椎下部の伸展に繋がり、腰椎前彎のきっかけとなります。
片手を使いながら重心移動をすることは、より複雑な筋肉のコントロールを必要とします。このことは、後の段階で、座ったり、重力に逆らって手を使ったりすることにつながります。

4．お子様のおなかを下にして、丸まった姿勢をとるようにし、お子様の気道を確保します。股関節、膝、足首が曲げられていることを確認し、足の裏に、ロールクッションをしっかりと固定します。次に、お気に入りのおもちゃ等をお子様に見せ、それにつられてお子様が膝をのばし、体を前に押し出すように誘います。
お子様の足をくすぐったりしながら、動作をうながします。この時、足がロールを踏んばれるようにしてあげます。この運動は、ずり這いや、ハイハイの基礎となります。

5．寝返りを促すように、お子様を背臥位と側臥位（横向き寝）の中間くらいで寝かせてみましょう。お子様が、おもちゃを触ったり、蹴ったりできるように促し、お子様自身が体幹をコントロールして寝返りが打てるようにしてみましょう。お子様が肩を回そうとしている間、お子様の腰や足を支えてあげましょう。

6．寝返り動作を更に進めるために、下半身を、ストラップか介助者の手で、しっかりと押さえます。お子様が上半身で寝返り動作ができるように促します。おもちゃをお子様が届かないところに置いておくと良いでしょう。上半身を回すことができれば、下半身がつられて回るようになります。

床座位（床すわり）

床座位という姿勢の役割
床座位は一連の発達過程のなかでも特に重要な部分として考えられています。この姿勢が、他の身体能力を活用するベースとなるからです。

「動き」としてのゴール
座位の姿勢としてのゴールは、体幹と骨盤を安定させることで腕や手を自由にすることです。それにより、お子様は何か対象物を手で操作し、探索することができ、多くの学習の機会を得て、環境との相互作用を経験することです。お子様は何かに手を伸ばしたり、つかんだり、離したり、またブロックをたたいたり、ほうり投げたりできるようになります！

「認知」としてのゴール
座る事により、お子様の世界が 3 次元であることを理解しやすくなります。そしてそこから、お子様は深さや距離といった空間認知を学習してゆくことになるのです。また座位はより社会的な姿勢でもあります。私たちは多くの場合、立位や座位といったアップライトな姿勢で互いにコミュニケーションをとっているのです。

「感覚」としてのゴール
頭部コントロールがより上手になり、座位姿勢が安全にサポートされていれば、お子様の手は自由になり、より広い範囲で、モノの手触りや形、大きさなどを探求するようになります。

「コミュニケーション」としてのゴール
座る事は、社会参加しやすい姿勢というだけでなく、新しい言葉（特に、形容詞や動詞）や状況をとり入れるのに適切な姿勢です。お子様が、まだ床座位に慣れていない段階で、お子様が新しい言葉を学んでいる瞬間は、安定した座位姿勢を取るために、より多くのサポートが必要な事を忘れないでください。

床座位

こんなふうに使ってみましょう

1．お子様が座りながら、おもちゃを手で触れるようにしてあげましょう。初めは、お子様の手が届きやすいところにおもちゃを置いて、おもちゃを握ったり、手から手へ動かしたり、振ったり、投げたりできるようにしてみましょう。

２．お子様が座りながら、おもちゃを手で触るようにしてあげましょう。おもちゃを、お子様から少し離れた所に置いて、この遊びをすこし難しくしてみましょう。お子様は、おもちゃを取るために、より遠くに手を伸ばすようになります。

３．おもちゃをお子様の横側において、お子様が体の横に手を伸ばすようにしてみましょう。この動きは、首や体幹の筋肉を強くしたり、目と手の感覚統合や、重心移動の能力を伸ばすことに役立ちます。

４．明るいカラフルなものを、お子様の顔から 30-40cm くらい離して持ちます。半円を描くように横にゆっくりと動かしましょう。お子様は、重力に対して体を安定させるために、お尻や腰の筋肉を使い、また、体幹の筋肉を使って体を左右に回すことで、座りながら頭を回すことを学んでいくでしょう。

９．テクニカルインフォメーション

プレイパックは、0 歳から 4 歳くらいまでのお子様を対象に作られています。

	長さ	幅	奥行	高さ	角度	最小座幅	最大座幅
バッグ	44cm	49cm	15cm	-	-	-	-
フロアマット	134cm	75cm	-	-	-	-	-
ロールクッション（ロング）	52cm	9cm	7cm	-	-	-	-
ロールクッション（ショート）	28cm	9cm	7cm	-	-	-	-
ベルト	66cm	8cm	-	-	-	-	-
ウェッジクッション	22cm	26cm	25cm	-	6.5°	-	-
Ｕ字クッション（大）	-	-	10cm	11cm	-	20cm	25cm
Ｕ字クッション（小）	-	-	9cm	7cm	-	20cm	25cm